



Informatica® Application Integration
December 2022

Salesforce コネクタガイド

Informatica Application Integration Salesforce コネクタガイド
December 2022

© 著作権 Informatica LLC 1993, 2023

発行日: 2023-08-18

目次

序文	4
第 1 章 : Salesforce コネクタの概要	5
Salesforce の概要.....	5
Salesforce コネクタ概要.....	5
Salesforce コネクタの管理.....	6
Informatica Cloud Real Time Salesforce Managed Package のインストール.....	6
カスタムプラットフォームイベントに対するオブジェクト権限の Salesforce ユーザーへの割り当て.....	6
第 2 章 : Salesforce 接続	7
Salesforce 接続の概要.....	7
基本接続のプロパティ.....	8
Salesforce 接続認証プロパティ.....	10
Salesforce オブジェクトフィルタ.....	14
Salesforce イベントソースプロパティ.....	14
Salesforce イベントターゲットプロパティ.....	17
Salesforce 接続メタデータ.....	19
OData 対応接続のエンドポイント URL.....	21
第 3 章 : Salesforce コネクタのプロセス	22
Salesforce コネクタプロセスの概要.....	22
Salesforce へのサブスクライブに関するプロセスガイドライン.....	23
Salesforce へのパブリッシュに関するプロセスガイドライン.....	23
Salesforce プロセスのルールおよびガイドライン.....	24
索引	25

序文

『Salesforce コネクタガイド』で、組織の管理者とビジネスユーザーが、どのように Salesforce コネクタを使用して Salesforce のオブジェクトやサービスに接続できるかを確認します。Salesforce イベントソースとイベントターゲットを作成してプロセスで使用する方法を確認します。

第 1 章

Salesforce コネクタの概要

この章では、以下の項目について説明します。

- [Salesforce の概要, 5 ページ](#)
- [Salesforce コネクタ概要, 5 ページ](#)
- [Salesforce コネクタの管理, 6 ページ](#)

Salesforce の概要

Salesforce は、販売チームが連絡先および販売活動を管理するためのクラウドベースの顧客関係管理（CRM）ソリューションです。Salesforce を使用すると、組織の販売活動の連絡先およびデータを保存および管理できます。

Salesforce は、プッシュテクノロジーを使用したイベントのストリーミングを実現するストリーミング API を提供しています。ストリーミング API を使って、Salesforce プラットフォームイベント、PushTopic クエリ、および変更イベントにサブスクライブすることができます。Salesforce プラットフォームイベントにメッセージをほぼリアルタイムでパブリッシュすることもできます。

Salesforce コネクタ概要

Salesforce オブジェクトに対する操作を安全に実行するには、Salesforce コネクタを使用します。Salesforce カスタムプラットフォームイベント、PushTopic クエリ、および変更イベントにサブスクライブすることができます。Salesforce カスタムプラットフォームイベントにメッセージをパブリッシュすることもできます。

Salesforce コネクタを使用して Salesforce 接続を作成し、アプリケーションの統合プロセスで使用できます。次の Salesforce エディションに対する接続を作成できます。

- Professional Edition
- Enterprise Edition
- Unlimited Edition

アプリケーションの統合は、Salesforce 接続の認証を行うための OAuth メソッドとパスワードメソッドをサポートします。

アプリケーションの統合プロセスを作成して、次のタスクを実行できます。

- Salesforce オブジェクトの読み取り、更新、または削除。

- カスタムプラットフォームイベント、PushTopic クエリ、変更イベントなど、Salesforce ストリーミングチャンネルのイベントへのサブスクライブ。
- Salesforce カスタムプラットフォームイベントへのメッセージのパブリッシュ。

注: Salesforce コネクタを使用して、標準プラットフォームイベントにサブスクライブしたり、メッセージをパブリッシュすることはできません。

Salesforce のレコードの挿入、更新、削除などのイベントで Salesforce コネクタのプロセスをトリガできます。

Salesforce コネクタの管理

Salesforce コネクタを使用する前に、Salesforce で次のタスクを行う必要があります。

- Salesforce 環境に Informatica Cloud Real Time Salesforce Managed Package をインストールする。
- カスタムプラットフォームイベントのオブジェクト権限を Salesforce ユーザーに割り当てる。Salesforce カスタムプラットフォームイベントにサブスクライブするか、メッセージをパブリッシュするには、このタスクを実行する必要があります。

Informatica Cloud Real Time Salesforce Managed Package のインストール

Salesforce 接続を作成する前に、Informatica Cloud Real Time Salesforce Managed Package を Salesforce 環境にインストールする必要があります。インストール方法は、Salesforce のその他のアプリケーションやプラグインと同様です。この Managed Package は、Salesforce 組織と Informatica Cloud 組織との間の接続を提供します。

インストールの詳細については、『*Salesforce and Application Integration Guide*』の *Managed Package* のインストールに関するトピックを参照してください。

Informatica Cloud Real Time Salesforce Managed Package をインストールした後に、組織が Salesforce で IP 制限を有効にしている場合は、ユーザープロファイルまたは組織の IP アドレス範囲内の特定の POD のすべての Cloud アプリケーション統合 IP アドレス範囲をホワイトリストに登録する必要があります。これにより、アプリケーション統合に接続されたアプリケーションが Salesforce と通信し、プラットフォームイベントを消費できるようになります。

ホワイトリスト登録する必要がある Cloud アプリケーション統合の IP アドレス範囲については、[Knowledge Base article 524982](#) を参照してください。

カスタムプラットフォームイベントに対するオブジェクト権限の Salesforce ユーザーへの割り当て

Salesforce カスタムプラットフォームイベントにサブスクライブするか、メッセージをパブリッシュするには、Salesforce 環境で権限を設定する必要があります。

1. Salesforce にログインします。
2. 左ペインの **[Administer]** で、**[Manage Users]** > **[Profiles]** をクリックし、権限を割り当てるユーザープロファイルの名前をクリックします。
3. プロファイルを編集して、作成した Salesforce カスタムプラットフォームイベントに対するオブジェクト権限を割り当てます。

第 2 章

Salesforce 接続

この章では、以下の項目について説明します。

- [Salesforce 接続の概要, 7 ページ](#)
- [基本接続のプロパティ, 8 ページ](#)
- [Salesforce 接続認証プロパティ, 10 ページ](#)
- [Salesforce オブジェクトフィルタ, 14 ページ](#)
- [Salesforce イベントソースプロパティ, 14 ページ](#)
- [Salesforce イベントターゲットプロパティ, 17 ページ](#)
- [Salesforce 接続メタデータ, 19 ページ](#)
- [OData 対応接続のエンドポイント URL, 21 ページ](#)

Salesforce 接続の概要

Salesforce 接続を作成すると、Salesforce のオブジェクトやサービスに接続できるほか、Salesforce 接続でイベントソースを設定して、Salesforce カスタムプラットフォームイベント、PushTopic クエリ、および変更イベントにサブスクライブできます。イベントターゲットを設定して、Salesforce カスタムプラットフォームイベントにメッセージをパブリッシュできます。

Salesforce 接続を作成した後に、接続を検証および保存します。次に、Salesforce 接続をパブリッシュして、**[メタデータ]** タブをクリックし、接続用に生成されたプロセスオブジェクトを表示できます。

基本接続のプロパティ

次の表に、接続の作成ページの【プロパティ】タブで設定可能な基本プロパティを示します。

プロパティ	説明
名前	必須。Process Designer での識別に使用される、Salesforce 接続の名前。 名前はアルファベットで始まり、アルファベット、数値、ハイフン (-) のみを含めることができます。接続を作成するプロジェクトまたはフォルダで一意である必要があります。
場所	オプション。接続を保存するプロジェクトまたはフォルダの場所。【参照】をクリックして場所を選択します。 【エクスプローラ】ページがアクティブで、プロジェクトまたはフォルダが選択されている場合、接続のデフォルトの場所は選択されたプロジェクトまたはフォルダです。そうでない場合、デフォルトの場所は直近で保存されたアセットの場所です。
説明	オプション。接続の説明。
タイプ	必須。コネクタまたはサービスコネクタに使用する接続のタイプ。 【Salesforce】を選択します。
実行日時	必須。接続のランタイム環境。クラウドサーバー、Secure Agent グループ、または Secure Agent マシン上で接続を実行できます。 Salesforce カスタムプラットフォームイベント、PushTopic クエリ、および変更イベントにサブスクライブするか、Salesforce カスタムプラットフォームイベントにメッセージをパブリッシュするには、Secure Agent グループまたは Secure Agent マシンを選択する必要があります。イベントソースまたはイベントターゲットを作成して使用する場合、クラウドサーバーでは Salesforce 接続を実行できません。
接続テスト	Salesforce コネクタではサポートされていません。
OData 対応	オプション。接続で OData フィードを有効にするかどうかを指定します。 OData フィードを有効にするには、【はい】を選択します。【はい】を選択した場合、設計時に接続へのアクセス権を持つ許可されたユーザーまたはグループを指定する必要があります。OData エンドポイント URL へのクラウドアクセスを有効または無効にすることもできます。 デフォルトは【いいえ】です。 OData エンドポイント URL の詳細については、 「OData 対応接続のエンドポイント URL」 (ページ 21) を参照してください。

プロパティ	説明
OData クラウドアクセス有効	<p>オプション。Cloud エンドポイント URL または Secure Agent エンドポイント URL を使用して、OData サービスからデータにアクセスできるかどうかを指定します。</p> <p>OData を有効にして、Secure Agent マシンまたは Secure Agent グループで実行するように接続を設定した場合は、セキュリティのために Cloud エンドポイント URL へのアクセスを無効にするよう選択できます。</p> <p>Cloud エンドポイント URL へのアクセスを無効にするには、【いいえ】 を選択します。【いいえ】 を選択した場合、Cloud エンドポイント URL を使用して OData サービスからデータにアクセスできなくなります。Secure Agent エンドポイント URL を使用した場合にのみ、データにアクセスできます。</p> <p>Cloud エンドポイント URL または Secure Agent エンドポイント URL を使用して OData サービスからデータにアクセスするには、【はい】 を選択します。</p> <p>デフォルトは 【はい】 です。</p> <p>注: 【OData 対応】 オプションを 【いいえ】 に設定した場合、アプリケーション統合により OData エンドポイント URL が生成されないため、【OData クラウドアクセス有効】 オプションに設定した値は適用されません。</p> <p>OData エンドポイント URL の詳細については、「OData 対応接続のエンドポイント URL」 (ページ 21) を参照してください。</p>
OData で許可されたユーザー	<p>オプション。設計時に接続へのアクセス権を持つユーザー。</p> <p>複数のユーザーを指定できます。最初の値を指定したら、Enter キーを押すかカンマを入力してから次の値を指定します。</p>
OData で許可されたグループ	<p>オプション。設計時に接続へのアクセス権を持つユーザーグループ。</p> <p>複数のユーザーグループを指定できます。最初の値を指定したら、Enter キーを押すかカンマを入力してから次の値を指定します。</p>

基本プロパティを設定した後、次のプロパティも定義する必要があります。

- Salesforce 接続の認証プロパティ
- Salesforce 接続のイベントソースプロパティ
- Salesforce 接続のイベントターゲットプロパティ

Salesforce 接続認証プロパティ

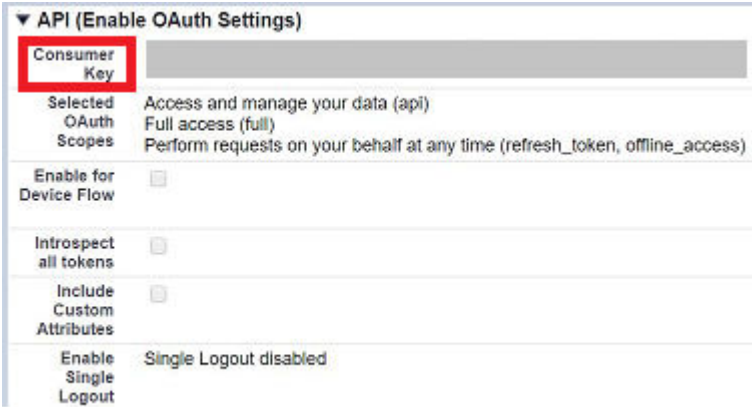
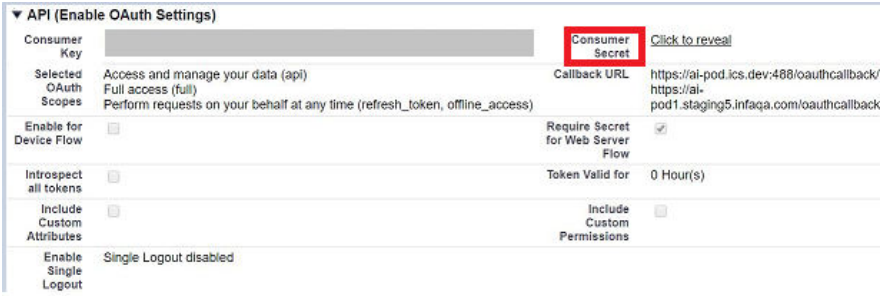
Salesforce 接続を作成する際は、認証プロパティの【パスワード】または【OAuth】を使用して接続を設定します。デフォルトは【パスワード】認証です。

パスワード認証

パスワード認証を使用して Salesforce 接続を認証するには、【認証タイプ】リストの【パスワード】を選択し、次のプロパティを設定します。

接続プロパティ	説明
ユーザー名	必須。Salesforce 開発者アカウントのユーザー名。
パスワード	必須。Salesforce 開発者アカウントのパスワード。
セキュリティトークン	必須。Salesforce のセキュリティトークン。大文字小文字が区別される英数字のコード。第 2 段階の認証として使用されます。
サービスの URL	必須。Salesforce エンドポイントの SOAP サービス URL。例えば、次のように入力します。 <code>https://login.salesforce.com/services/Soap/c/40.0</code> Salesforce カスタムプラットフォームイベント、PushTopic クエリ、および変更イベントにサブスクライブするか、Salesforce カスタムプラットフォームイベントにメッセージをパブリッシュする場合、Salesforce ログイン用の SOAP サービス URL のサポートされているバージョンは 40.0 です。次の値を入力します。 <code>https://login.salesforce.com/services/Soap/c/40.0</code>

Salesforce カスタムプラットフォームイベント、PushTopic クエリ、および変更イベントにサブスクライブするか、Salesforce カスタムプラットフォームイベントにメッセージをパブリッシュするには、[イベント API の設定] セクションで次のプロパティを設定する必要があります。

接続プロパティ	説明
コンシューマキー	<p>API アクセス用の Salesforce ユーザーアカウントに関連付けられたコンシューマキー。</p> <p>Salesforce カスタムプラットフォームイベント、PushTopic クエリ、および変更イベントにサブスクライブするか、Salesforce カスタムプラットフォームイベントにメッセージをパブリッシュするには、このフィールドが必要です。</p> <p>このコンシューマキーを確認するには次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Salesforce にログインします。 - [Create] > [Apps] をクリックします。接続アプリケーションが表示されます。 - 目的の接続アプリケーションをクリックします。次の図に示すように、[API] セクションにコンシューマキーが表示されます。  <p>▼ API (Enable OAuth Settings)</p> <p>Consumer Key</p> <p>Selected OAuth Scopes: Access and manage your data (api), Full access (full), Perform requests on your behalf at any time (refresh_token, offline_access)</p> <p>Enable for Device Flow: <input type="checkbox"/></p> <p>Introspect all tokens: <input type="checkbox"/></p> <p>Include Custom Attributes: <input type="checkbox"/></p> <p>Enable Single Logout: Single Logout disabled</p>
コンシューマシークレット	<p>API アクセス用の Salesforce ユーザーアカウントに関連付けられたコンシューマシークレット。</p> <p>Salesforce カスタムプラットフォームイベント、PushTopic クエリ、および変更イベントにサブスクライブするか、Salesforce カスタムプラットフォームイベントにメッセージをパブリッシュするには、このフィールドが必要です。</p> <p>コンシューマシークレットを見つけるには、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Salesforce にログインします。 - [Create] > [Apps] をクリックします。接続アプリケーションが表示されます。 - 目的の接続アプリケーションをクリックします。次の図に示すように、[API] セクションにコンシューマシークレットが表示されます。  <p>▼ API (Enable OAuth Settings)</p> <p>Consumer Key: [Redacted]</p> <p>Consumer Secret Click to reveal</p> <p>Selected OAuth Scopes: Access and manage your data (api), Full access (full), Perform requests on your behalf at any time (refresh_token, offline_access)</p> <p>Callback URL: https://ai-pod.ics.dev:488/oauthcallback/https://ai-pod1.staging5.infaga.com/oauthcallback</p> <p>Enable for Device Flow: <input type="checkbox"/></p> <p>Require Secret for Web Server Flow: <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>Introspect all tokens: <input type="checkbox"/></p> <p>Token Valid for: 0 Hour(s)</p> <p>Include Custom Attributes: <input type="checkbox"/></p> <p>Include Custom Permissions: <input type="checkbox"/></p> <p>Enable Single Logout: Single Logout disabled</p>

OAuth 認証

API を介して Salesforce に接続するには、OAuth を使用します。OAuth 認証の使用を選択した場合は、接続の認証時に表示される Salesforce ウィンドウに、Salesforce 開発者アカウントの資格情報を入力します。Salesforce 開発者アカウントの資格情報は、アプリケーションの統合の UI には入力しません。OAuth を使用して外部アプリケーションを認証する方法の詳細については、Salesforce のドキュメントを参照してください。

OAuth 認証を使用して Salesforce 接続を認証するには、**【認証タイプ】** リストの **【OAuth】** を選択し、次のプロパティを設定します。

接続プロパティ	説明
承認 URL	必須。Salesforce に対する OAuth 承認要求を作成するために使用するエンドポイント。次の URL は、本番用とサンドボックス用のデフォルトの承認 URL です。 - https://login.salesforce.com/services/oauth2/authorize - https://test.salesforce.com/services/oauth2/authorize
トークン要求 URL	必須。Salesforce に対する OAuth トークン要求を作成するために使用するエンドポイント。次の URL は、本番用とサンドボックス用のデフォルトのトークン要求 URL です。 - https://login.salesforce.com/services/oauth2/token - https://test.salesforce.com/services/oauth2/token
セッション期間	オプション。OAuth トークンの有効期限が切れるまでの分数。この期間が終了すると、接続はトークン要求を作成し、再び承認を実行します。セッションがタイムアウトになっても、接続を手動で承認する必要はありません。 デフォルトは 60 分です。
承認ステータス	現在の承認ステータス。接続を最後に承認したユーザーの名前と、承認が発生した時刻（該当する場合）。
アクセスの承認	必須。OAuth 承認プロセスを開始します。 以下のタスクを実行します。 1. 【アクセスの承認】 の横にある 【承認】 をクリックします。 2. 表示される Salesforce ウィンドウで、Salesforce 開発者アカウントの資格情報を入力します。 3. アクセスの承認を促すメッセージの横にある 【許可】 をクリックします。

OAuth JWT 認証

Salesforce 接続で OAuth JSON Web トークン（JWT）認証を設定して、Salesforce に接続できます。

OAuth JWT 認証を使用して、情報を交換するたびにログインなしでデータにアクセスすることをサーバーに許可します。OAuth JWT 認証では、証明書を使用して JWT 要求の署名が行われ、明示的なユーザー操作は必要ありません。

OAuth JWT 認証を設定する前に、キーストアファイルとパスワードがあることを確認してください。

OAuth JWT 認証を使用して Salesforce 接続を認証するには、**【認証タイプ】** リストの **【OAuth JWT】** を選択し、次のプロパティを設定します。

接続プロパティ	説明
ユーザー名	必須。接続アプリケーションへのアクセスが可能な Salesforce ユーザー名。
キーストアファイル	必須。PKCS12 形式のキーストアファイルを選択します。
キーストアのパスワード	必須。キーストアのパスワードを入力してください
セッション期間	オプション。セッションが期限切れになるまでの分数。この期間が終了すると、接続アプリケーションはトークン要求を作成し、再び承認を実行します。セッションがタイムアウトになっても、接続を手動で承認する必要はありません。デフォルトは 60 分です。
コンシューマキー	<p>必須。Salesforce 接続アプリケーションに関連付けられたコンシューマキー。</p> <p>Salesforce カスタムプラットフォームイベント、PushTopic クエリ、および変更イベントにサブスクライブするか、Salesforce カスタムプラットフォームイベントにメッセージをパブリッシュするには、このフィールドが必要です。</p> <p>コンシューマキーを見つけるには、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Salesforce にログインします。 - 【Create】 > 【Apps】 をクリックします。接続アプリケーションが表示されます。 - 目的の接続アプリケーションをクリックします。次の図に示すように、【API】 セクションにコンシューマキーが表示されます。 
トークン要求 URL	<p>必須。Salesforce に対する OAuth トークン要求を作成するために使用するエンドポイント。次の URL は、本番用とサンドボックス用のデフォルトのトークン要求 URL です。</p> <ul style="list-style-type: none"> - https://login.salesforce.com/services/oauth2/token - https://test.salesforce.com/services/oauth2/token
オーディエンス	<p>必須。トークンの対象ユーザーの認証サーバーのエンドポイント。次の URL は、デフォルトの本番環境、サンドボックス、および Experience Cloud サイトのトークン要求 URL です。</p> <ul style="list-style-type: none"> - https://login.salesforce.com - https://test.salesforce.com - https://site.force.com/customers

注: プロセスで、OAuth JWT 認証を使用してプラットフォームイベントベースの Salesforce 接続を使用するには、プラットフォームイベントが同じ Salesforce 組織内にあり、イベントが有効になっていることを確認しま

す。そうしないと、プロセスの入力フィールドで、接続イベントタイプではなく、タイプが\$anyとして表示される場合があります。

OAuth JWT 認証を使用して Salesforce 接続を設定しているときに、次のエラーが発生する場合があります。

- `invalid_grant`: ユーザーはこのコンシューマを承認していません
この問題を解決するには、Salesforce で、接続アプリケーションの OAuth ポリシーを **【すべてのユーザーが自己認証可能】** から **【管理者が承認したユーザーが事前認証される】** に変更する必要があります。
- `invalid_app_access`: ユーザーによるこのアプリケーションへのアクセスが管理者によって承認されていません
この問題を解決するには、Salesforce で、接続されたアプリケーションへのアクセス権をユーザーのプロファイルに付与する必要があります。

OAuth JWT 認証の詳細については、Salesforce のドキュメントを参照してください。

Salesforce オブジェクトフィルタ

Salesforce 接続を作成するときは、オブジェクトフィルタを設定して、オブジェクトをフィルタ処理するための条件を追加できます。複数のオブジェクト名はカンマで区切って指定できます。

Salesforce 接続でオブジェクトフィルタを定義してパブリッシュすると、アプリケーション統合によって、指定したオブジェクトとそれに関連するオブジェクトのメタデータのみが取り込まれます。

オブジェクトフィルタを使用して Salesforce 接続をパブリッシュするには、**【パブリッシュ】** オプションを使用します。Salesforce 接続のパブリッシュ時にメタデータの更新をスキップすることを選択すると、前回のパブリッシュでのオブジェクトが表示されます。

注: オブジェクトフィルタが設定された Salesforce という名前の Salesforce 接続があり、それを Salesforce から直接同期する場合、アプリケーション統合はそのオブジェクトフィルタをスキップします。

Salesforce イベントソースプロパティ

Salesforce コネクタは Salesforce ストリーミング API をサポートしています。Salesforce 接続でイベントソースを設定して、Salesforce カスタムプラットフォームイベント、PushTopic クエリ、および変更イベントにサブスクライブできます。そのイベントソースをプロセスで使用すると、変更をほぼリアルタイムでコンシュームできます。

Salesforce 接続のイベントソースを定義したら、その接続を Secure Agent グループまたは Secure Agent マシンでパブリッシュできます。その後、そのイベントソースにプロセスでアクセスし、そのプロセスを Secure Agent グループまたは Secure Agent マシンにデプロイして、イベントソースダウンストリームによって生成されたプロセスオブジェクトをコンシュームできます。

接続が初めて公開された後に、Salesforce はデフォルトの `replayID` として -1 を割り当てます。イベントがサブスクライバに配信されると、イベントストリーム内のイベントの位置に基づいて `replayID` が自動生成されます。プロセスサーバーは `replayID` を保持し、それらを使用して後続の要求を処理します。接続に失敗した場合、プロセスサーバーは永続化された `replayID` を使用して、欠落したイベントを取得し、メッセージの損失を回避します。

Salesforce はメッセージを 24 時間保持します。`replayID` が 24 時間を経過したより古いメッセージを示す場合、`replayID` は -1 にリセットされ、最近のイベントのみが処理されます。

Salesforce 接続のイベントソースを作成するには、[イベントソース] タブで [イベントソースの追加] をクリックします。イベントソースタイプで [イベントソース] を選択します。作成する Salesforce 接続ごとに 1 つ以上のイベントソースを追加できます。

次の表に、設定できる基本的なイベントソースプロパティを示します。

プロパティ	説明
名前	必須。Process Designer に表示されるイベントソースの名前。この名前は、この接続に一意である必要があります。 名前はアルファベットで始まり、アルファベット、数値、ハイフン (-) のみを含めることができます。
説明	オプション。Process Designer に表示される Salesforce イベントソースの説明。
有効	このイベントソースをパブリッシュ後即時に使用できるようにするには、[はい] を選択します。このイベントソースを使用準備ができるまで無効にするには、[いいえ] を選択します。 デフォルトは [はい] です。

イベントソースの次のプロパティを設定することができます。

負荷分散を有効化

必須。負荷分散のため、グループ内のすべての Secure Agent または選択した Secure Agent のどちらに対して接続のデプロイを行う必要があるかを決定します。このオプションは、プロセスサーバーが Secure Agent のクラスタ設定を使用する場合にのみ有効にしてください。

このオプションを有効にすると、プロセスサーバーは、負荷分散を確実に行うため、Secure Agent クラスタ内の複数の Secure Agent マシン間にルートを分散します。

デフォルトは [いいえ] です。

注: 接続をパブリッシュしてプロセスを実行した後、負荷分散のオプションを切り替えると、重複するメッセージが表示される場合があります。この問題を回避するため、負荷分散用の新しい接続を作成することをお勧めします。

イベントコンシューマ

必須。サブスクライブする Salesforce カスタムプラットフォームイベント、PushTopic クエリ、または変更イベントの名前。

次のいずれかの方法を使用して、サブスクライブするイベントのタイプに基づいてこのプロパティを設定します。

Salesforce カスタムプラットフォームイベントにサブスクライブする場合

プラットフォームイベントにサブスクライブするには、Salesforce でそのプラットフォームイベントに対して定義した API 名を入力し、/event/ というプレフィックスを追加します。

例えば、次の図に示すように、API 名が **CS_PlatformEvent_e** と設定された Salesforce カスタムプラットフォームイベントを考えてみます。

Platform Event
CS_PlatformEvent

[Standard Fields \[3\]](#)

Platform Event Definition Detail [Edit](#) [Delete](#)

Singular Label	CS_PlatformEvent
Plural Label	CS_PlatformEvent
Object Name	CS_PlatformEvent
API Name	CS_PlatformEvent__e
Event Type	Standard Volume i
Created By	Salesforce mine, 1/27/2019 11:20 PM

Standard Fields

Action	Field Label	Field Name
Created By		CreatedBy
Created Date		CreatedDate
Replay ID		ReplayId

この場合、[イベントコンシューマ] フィールドに次の値を入力します。

/event/CS_PlatformEvent__e

Salesforce の PushTopic クエリにサブスクライブする場合

PushTopic クエリにサブスクライブするには、Salesforce でその PushTopic クエリに対して定義したストリーミングプッシュトピック名を入力し、**/topic/**というプレフィックスを追加します。

例えば、次の図に示すように、プッシュトピック名が **AccountTopic** と設定された Salesforce PushTopic クエリを考えてみます。

Streaming Push Topics

Subscribe to a Push Topic to stream query updates:

☒ Push Topics ☐ Generic Subscriptions

Replay from:

Push Topic: [Subscribe](#) [Unsubscribe](#) [Details](#)

この場合、[イベントコンシューマ] フィールドに次の値を入力します。

/topic/AccountTopic

変更イベントへのサブスクライブ

Salesforce コネクタを使用して、Salesforce で変更イベントにサブスクライブし、外部データストアの対応するデータを同期することができます。

変更イベントとは、レコードに対して行われた変更のことです。変更には、新規レコードの作成、既存のレコードの更新、レコードの削除、レコード削除の取り消しなどがあります。

変更イベントにサブスクライブするには、次の形式のいずれかを使用します。

- /data/ChangeEvent: すべての Salesforce CDC 対応エンティティの変更イベントにサブスクライブ
- /data/<standard_object_name>ChangeEvent: 特定の標準オブジェクトの変更イベントにサブスクライブ
- /data/<custom_object_name>__ChangeEvent: 特定のカスタムオブジェクトの変更イベントにサブスクライブ
- /Data/<custom_channel_name>__chn:: カスタムチャンネルの変更イベントにサブスクライブ

Salesforce で CDC 対応エンティティのリストを更新する場合は、Salesforce 接続とプロセスを再パブリッシュして、新しいまたは更新された CDC 対応エンティティをリッスンする必要があります。

デフォルトでは、Salesforce コネクタは、Salesforce で変更データキャプチャ（CDC）が有効になっている組織内のすべてのエンティティのすべての変更イベントをリッスンします。変更イベントをフィルタリングする場合は、**【イベントフィルタ】** フィールドでリッスンする必要がある特定の CDC 対応エンティティを定義できます。

イベントフィルタ

変更イベントをフィルタリングする必要がある Salesforce CDC 対応エンティティの名前のカンマ区切りリストを **【イベントフィルタ】** フィールドに入力します。

各イベントソースのステータスは、パブリッシュされた接続で表示できます。イベントソースのステータスが **【停止】** の場合は、接続を再パブリッシュしてイベントソースを再開できます。接続を再パブリッシュすると、接続内のすべてのイベントソースがデフォルトで開始されます。

リスナベース接続でのイベントソースの開始と停止の詳細については、「*Cloud アプリケーション統合と Monitor のためのコネクタ*」を参照してください。

注: Salesforce イベントソースは、同じ Secure Agent グループまたは Secure Agent マシンで実行される複数の Salesforce 接続の間で一意である必要があります。

Salesforce イベントターゲットプロパティ

Salesforce コネクタは Salesforce ストリーミング API をサポートしています。Salesforce カスタムプラットフォームイベントにメッセージをパブリッシュするように、Salesforce 接続のイベントターゲットを設定できます。プロセスでイベントターゲットを使用して、ほぼリアルタイムでメッセージをパブリッシュできます。

注: Salesforce PushTopic クエリにメッセージをパブリッシュするようにイベントターゲットを設定することはできません。

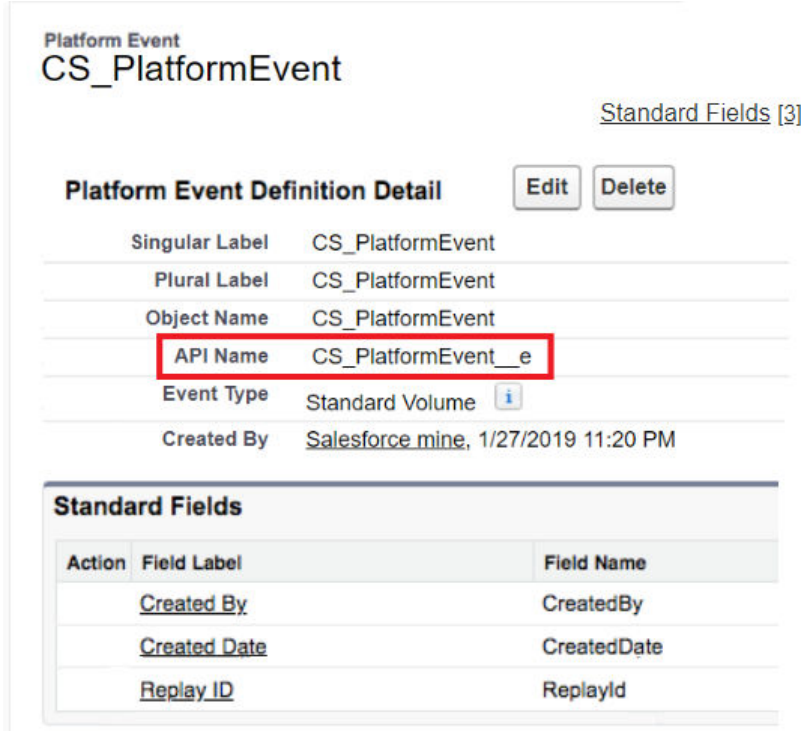
Salesforce 接続のイベントターゲットを定義した後で、その接続を Secure Agent グループまたは Secure Agent マシンでパブリッシュできます。その後、そのイベントターゲットにプロセスでアクセスし、そのプロセスを Secure Agent グループまたは Secure Agent マシンにデプロイして、イベントターゲットダウンストリームによって生成されたプロセスオブジェクトをコンシュームできます。

Salesforce 接続のイベントターゲットを作成するには、**【イベントターゲット】** タブで **【イベントターゲットの追加】** をクリックします。イベントターゲットタイプで **【イベントターゲット】** を選択します。作成する Salesforce 接続ごとに 1 つ以上のイベントターゲットを追加できます。

次の表に、設定できる基本的なイベントターゲットプロパティを示します。

プロパティ	説明
名前	必須。Process Designer に表示されるイベントターゲットの名前。この名前は、この接続に一意である必要があります。 名前はアルファベットで始まり、アルファベット、数値、ハイフン (-) のみを含めることができます。
説明	オプション。Process Designer に表示される Salesforce イベントターゲットの説明。
有効	このイベントターゲットをパブリッシュ後直ちに使用できるようにするには、 【はい】 を選択します。 使用準備ができるまでこのイベントターゲットを無効にするには、 【いいえ】 を選択します。 デフォルトは 【はい】 です。

次の表に、設定できるイベントターゲットプロパティを示します。

イベントターゲットのプロパティ	説明
イベントプロデューサ	<p>必須。メッセージをパブリッシュする Salesforce カスタムプラットフォームイベントの名前。</p> <p>プラットフォームイベントにメッセージをパブリッシュするには、Salesforce でそのカスタムプラットフォームイベントに対して定義した API 名を入力し、/event/というプレフィックスを追加します。</p> <p>例えば、次の図に示すように、API 名が CS_PlatformEvent_e と設定された Salesforce カスタムプラットフォームイベントを考えてみます。</p>  <p>この場合、[イベントプロデューサ] フィールドに次の値を入力します。 /event/CS_PlatformEvent_e</p>

注: Salesforce イベントターゲットは、同じ Secure Agent グループまたは Secure Agent マシンで実行される複数の Salesforce 接続の間で一貫である必要があります。

Salesforce 接続メタデータ

Salesforce 接続を作成したら、その接続を保存します。次に、Salesforce 接続をパブリッシュして、[メタデータ] タブをクリックし、接続用に生成されたプロセスオブジェクトを表示できます。

Application Integration で Salesforce 接続をパブリッシュすると、[アクション] と [オブジェクト] のリストが [メタデータ] タブに表示されます。

Salesforce のアクションは Salesforce が公開するサービスです。例えば、現在のリードオブジェクトを Account、Contact、または Opportunity のオブジェクトに変換するには、[リードの変換] アクションを使用します。

次の図は、Salesforce 接続の【メタデータ】タブに含まれる Salesforce のアクションを示しています。

Properties Metadata	
Connection published and synchronized on: 6/12/2019 2:06:52 PM. Preview data is either not supported or not enabled for this connection.	
▼ Actions	
Action Name	Description
Convert Lead	Used to convert the current Lead into an Account/Contact/Opportunity.
Create SObject	Automated step that creates an SObject
Delete SObject	Automated step that deletes an SObject

Salesforce オブジェクトとは、Salesforce Web サイトのタブなどのユーザーインターフェース要素に対応するテーブルです。例えば、Account オブジェクトには、Salesforce の **[Account]** タブのフィールドに表示される情報が含まれます。

次の図は、Salesforce 接続の【メタデータ】タブに含まれる Salesforce オブジェクトを示しています。

Properties [Metadata](#)

Connection published and synchronized on: 6/12/2019 2:06:52 PM. Preview data is either not supported or not enabled for this connection.

▶ Actions

▼ Objects

Name	Label	Type
▶ _any	Home	
▶ AcceptedEventRelation	Accepted Event Relation	
▶ Account	Account	
▶ AccountChangeEvent	Account Change Event	
▶ AccountContactRole	Account Contact Role	

Salesforce 接続をパブリッシュすると、デフォルトで【メタデータ】タブが更新されます。[パブリッシュ (メタデータの更新をスキップ)] をクリックすると、メタデータの更新をスキップして、パブリッシュにかかる時間を短縮できます。

メタデータ更新のベストプラクティス

- イベントソースまたはイベントターゲットを使用して Salesforce 接続をパブリッシュするときに Salesforce メタデータが必要ない場合は、接続のパブリッシュ中にメタデータの更新をスキップします。これによりパブリッシュにかかる時間が大幅に短縮され、不要なメタデータを取得する必要がなくなります。

- Salesforce 接続で資格情報を変更するときに、メタデータが変更されていないことがわかっている場合は、接続をパブリッシュするときにメタデータの更新をスキップして、資格情報の変更のみを適用します。
- メタデータが変更されていることがわかっている場合は、**【パブリッシュ】** をクリックしてメタデータの変更を取得します。

OData 対応接続のエンドポイント URL

OData 対応接続をパブリッシュすると、アプリケーション統合により OData サービスの URL が生成されます。

URL を表示するには、**【アクション】** > **【プロパティの詳細】** をクリックします。OData サービスの URL を使用して、REST エンドポイントの詳細を表示できます。

OData エンドポイント URL へのクラウドアクセスを有効にすると、デフォルトで、Informatica Cloud エンドポイントの OData サービスの URL が生成されます。OData サービスの URL は次の形式を使用します。

`https://<Informatica Intelligent Cloud Services の URL>/active-bpel/odata/v4/<接続名>`

形式を次のように変更することで、同等の Secure Agent エンドポイント URL を使用して OData サービスからデータにアクセスすることもできます。

`https://<ホスト>:<ポート>/process-engine/odata/v4/<接続名>/<スキーマ名>`

第 3 章

Salesforce コネクタのプロセス

この章では、以下の項目について説明します。

- [Salesforce コネクタプロセスの概要, 22 ページ](#)
- [Salesforce へのサブスクライブに関するプロセスガイドライン, 23 ページ](#)
- [Salesforce へのパブリッシュに関するプロセスガイドライン, 23 ページ](#)
- [Salesforce プロセスのルールおよびガイドライン, 24 ページ](#)

Salesforce コネクタプロセスの概要

Salesforce 接続を作成した後に、関連付けられたイベントソースおよびイベントターゲットとともにこの接続をプロセスで使用できます。

アプリケーションの統合プロセスを作成して、次のタスクを実行できます。

- Salesforce オブジェクトの読み取り、更新、または削除。
- カスタムプラットフォームイベント、PushTopic クエリ、変更イベントなど、Salesforce ストリーミングチャネルのイベントへのサブスクライブ。
- Salesforce カスタムプラットフォームイベントへのメッセージのパブリッシュ。

注: Salesforce コネクタを使用して、標準プラットフォームイベントにサブスクライブしたり、メッセージをパブリッシュすることはできません。

Salesforce のレコードの挿入、更新、削除などのイベントで Salesforce コネクタのプロセスをトリガできます。

Salesforce 接続と Salesforce コンシューマプロセスは、同じ Secure Agent グループまたは Secure Agent マシンで実行する必要があります。同様に、Salesforce 接続と Salesforce プロデューサプロセスは、同じ Secure Agent グループまたは Secure Agent マシンで実行する必要があります。

Salesforce プラットフォームイベントのパブリッシュとサブスクライブに関するビデオを表示し、サンプルプロセスをダウンロードするには、次のコミュニティ記事を参照してください。

<https://knowledge.informatica.com/s/article/DOC-18453>

Salesforce へのサブスクライブに関するプロセスガイドライン

Salesforce カスタムプラットフォームイベント、PushTopic クエリ、および変更イベントにサブスクライブするプロセスを作成する際には、次のガイドラインを使用します。

1. プロセスを作成し、[開始] ステップをクリックします。
2. [開始] タブをクリックし、プロセスのバインディングタイプとして **[イベント]** を選択します。
3. **[イベントソース名]** フィールドで、Salesforce 接続で作成したイベントソースを選択します。
Application Integration に、イベントの詳細を取得するための「**event**」という入力フィールドが作成されます。この入力フィールドは削除できません。他の入力フィールドを追加することもできません。
4. **[Run On]** リストで、Salesforce 接続を実行するように設定した Secure Agent グループまたは Secure Agent マシンを選択します。
5. 必要に応じて、他のステップおよびプロパティを設定します。
6. プロセスを検証、保存、パブリッシュします。

Salesforce 接続で指定したカスタムプラットフォームイベント、PushTopic クエリ、または変更イベントでイベントが発生すると、このプロセスが呼び出されます。

アプリケーション統合コンソールでプロセス実行の詳細を確認できます。**[プロセス]** タブをクリックし、このプロセスを実行するように設定したエージェントを選択します。ID をクリックすると、プロセス実行の詳細が表示されます。

Salesforce へのパブリッシュに関するプロセスガイドライン

Salesforce カスタムプラットフォームイベントにメッセージをパブリッシュするプロセスを作成する際には、次のガイドラインを使用します。

1. プロセスを作成し、[開始] ステップをクリックします。
2. [開始] タブをクリックし、プロセスのバインディングタイプとして **[REST/SOAP]** を選択します。
3. **[Run On]** リストで、Salesforce 接続を実行するように設定した Secure Agent グループまたは Secure Agent マシンを選択します。
4. サービスステップを追加してから、次のステップを実行します。
 - **[サービスタイプ]** リストから、**[接続]** を選択します。
 - **[接続]** リストから、作成した Salesforce 接続を参照して選択します。
 - **[アクション]** リストから、Salesforce 接続で作成した Salesforce イベントターゲットを選択します。
アプリケーション統合に、イベントの詳細を取得するための「**event**」という入力フィールドが作成されます。この入力フィールドは削除できません。他の入力フィールドを追加することもできません。
 - Salesforce カスタムプラットフォームイベントにパブリッシュするメッセージを設定します。
5. 必要に応じて、他のステップおよびプロパティを設定します。
6. プロセスを検証、保存、パブリッシュします。
7. プロセスを呼び出して、Salesforce カスタムプラットフォームイベントにメッセージをパブリッシュします。

アプリケーション統合コンソールでプロセス実行の詳細を確認できます。**[プロセス]** タブをクリックし、このプロセスを実行するように設定したエージェントを選択します。ID をクリックすると、プロセス実行の詳細が表示されます。

Salesforce プロセスのルールおよびガイドライン

Salesforce プロセスを作成する際には、次のルールとガイドラインを考慮してください。

- Salesforce コネクタを使用して、Salesforce 標準プラットフォームイベントにサブスクライブしたり、メッセージをパブリッシュすることはできません。
- プロセスに待機ステップを追加して Salesforce カスタムプラットフォームイベント、PushTopic クエリ、および変更イベントにサブスクライブするには、待機期間を 40 秒より短く設定する必要があります。待機期間が 40 秒を超えると、メッセージが失われる可能性があります。迅速に応答が返され、メッセージの損失が発生しないようにするためのマイルストーンステップを追加します。
- Salesforce イベントを消費するプロセスが失敗すると、プロセスが誤ってさらに 2 回トリガされます。

索引

S

Salesforce

概要 [5](#)

Salesforce Managed Package

インストール [6](#)

Salesforce イベントソース

プロパティ [14](#)

概要 [14](#)

Salesforce イベントターゲット

プロパティ [17](#)

概要 [17](#)

Salesforce コネクタ

概要 [5](#)

管理 [6](#)

Salesforce コネクタのプロセス

PushTopic クエリのサブスクリプション [23](#)

Salesforce コネクタのプロセス (続く)

カスタムプラットフォームイベントのサブスクリプション [23](#)

カスタムプラットフォームイベントへのメッセージのプブリッシュ

[23](#)

ルールおよびガイドライン [24](#)

概要 [22](#)

Salesforce コネクタの管理

カスタムプラットフォームイベントの権限の割り当て [6](#)

Salesforce 接続

OAuth 認証のプロパティ [10](#)

イベント API の設定 [10](#)

パスワード認証のプロパティ [10](#)

プブリッシュされたメタデータ [19](#)

概要 [7](#)

基本プロパティ [8](#)

前提条件 [6](#)